

虫生広濟寺

鬼来迎



地獄の釜が開くといわれる月遅れの盆の8月16日に、地元鬼来迎保存会のみなさんにより「鬼来迎」が上演されました。

全国でも珍しい仏教劇を見ようと、今年も県内外から大勢の観客が訪れ、うだるような暑さの中、繰り広げられる地獄絵図に息を凝らして見入っていました。

また、上演前には、鬼婆に抱かれた子どもは健康に育つ、と言いつた伝えのある「虫封じ」が行われ、境内に赤ちゃんの大きな泣き声が響き渡りました。



町に古くから伝わる「鬼来迎」は、因果応報^{いんがおうほう}、勧善懲悪^{かんぜんちやうあく}を説く、全国で唯一の古典的地獄劇で、その起源は約800年前、鎌倉時代初期にまで遡るといわれ、昭和51年には国の重要無形民俗文化財に指定されています。

この劇は、地獄の責め苦や浄土への導きを骨子とする「大序」、「賽の河原」、「釜入れ」、「死出の山」の4段と、広濟寺建立縁起を物語る「和尚道行」、「墓参」、「和尚物語」の3段の全7段からなります。

毎年上演されるのは、そのうちの上記前4段であり、お盆の施餓鬼^{せがき}会の後に広濟寺境内で上演されます。